

「主は私の羊飼い」

(詩篇23篇 1－6節)

はじめに

今朝は、詩篇23篇から、神のみことばを聞きましょう。あるとき、ある俳優がこの詩篇を劇場で朗読しました。終わると、感動した聴衆は拍手喝采しました。すると、聴衆の中の一人の老人が立ち上がり、この詩篇を朗読し始めました。聴衆は感動し、多くの人は、涙を流していました。先の俳優は、上手に朗読しましたが、老人は、自分の人生そのものをこの詩篇で読んだのです。今朝、この詩篇が、皆さんの人生となることを祈ります。

1. 主は私の羊飼い。私は、乏しいことはありません。(主はどのような方か)

ここで言われている「主」とは、どのような方でしょうか。この詩篇を書いたのは、ユダヤの2番目の王ダビデです。彼は、「主は私の羊飼い」と言いました。ダビデは、若い頃に父の羊の番をしていました。ですから、羊と羊飼いの関係をよく知っていました。羊は弱く、迷いやすいものです。しかし、羊飼いがいれば、何の心配もありません。私たちも、羊のように弱く、迷いやすい者です。主イエス・キリストは、私たちの羊飼いです。それは、主が自分を養ってくださる方。自分を育ててくださる方。自分を守ってくださる方という意味です。イエス様は、「わたしは良い羊飼いです。良い羊飼いは、羊のためにいのちを捨てます」と言われました。ダビデは、自分が良い羊飼いであったので、主を羊飼いであるとして、「私は、乏しいことはありません」と言ったのです。本当に主が私の羊飼いであるならば、私に乏しいことあるのでしょうか。今この時、主は、あなたの羊飼いですか。

2. 主は、私を緑の牧場に伏させ、いこいの水のほとりに伴われます。(主の祝福)

次に、ダビデは、なぜ乏しいことがないかを詳しく語ります。

それは、主が私たちに必要を満たし、安らぎを与えてくださるからです。主は、羊たちを「緑の牧場、いこいの水のほとりに導かれる」と言いました。そこには食べ物と飲み物が十分にあります。主イエスは、私たちの必要を何時も満たしてくださいます。

私たち家族に与えられ祝福をあかししましょう。子どもが4人いますが、長男は牧師の娘と結婚し、子どもが3人います。私が40年奉仕した横浜の日本長老教会・菊名西教会の長老をし、最近では日本長老教会の財務も務めました。次男も結婚し、日本長老教会希望キリスト教会の牧師をしています。子どもが1人いますが、日本長老教会玉川上水キリスト教会の杉本信牧師と結婚しています。長女は、日本同盟基督教団の多磨教

会の朝岡勝牧師と結婚しました。3人子どもがいます。3男は、神奈川県教会で、任
泰教牧師の後を継いで、日本長老教会・さがみのキリスト教会牧師をしています。子供
が3人います。子どもたち全員が神様に仕えていることは、何という恵み、また祝福で
しょう。どうしてそんなにうまく子育てができたのですかと聞かれても、分かりません。
妻に聞いてください。。

私は、16歳でクリスチャンになりました。今89歳ですからクリスチャンになって
丁度73年になります。18歳の時、牧師になるため献身しました。小さな鞆と父がく
れた1000円を持って家を出たのです。やがて私の父も母も、妻の父も母も救われま
した。神様は、このように私たちを祝福してくださいました。

3. 主は私のたましいを生き返らせ、御名のために、私を義の道に導かれます。（主の 導き）

でも、私たちの人生には多くの困難がありました。1965年に、私たちは、信者が一
人もいない中で、開拓伝道を始めました。その頃、一番つらかったのは貧しさでした。
お米のご飯は月の半分の日しか食べられないこともありました。

しかし、私たちの人生で一番つらかったことの一つは、長男が教会を離れたことでし
た。長男は、16歳で洗礼を受けましたが、18歳の時から教会を離れてしまいました。
その間、私たちは祈り続けました。しかし、主は16年間離れていた長男を教会に戻し
てくださいました。どのようにしてだと思えますか。奇跡としか思えません。

3男がキリスト教大学3年の時、急に学校に行けなくなりました。大きな悩みのため
に、苦しみ、行けなくなりました。教会にも行けなくなりました。そのとき、教会を離
れていた長男が、彼にこう言ったのです。「僕がついて行ってあげるから、教会に行こ
う。教会を離れてはいけない」。長男は3男を連れて私の友人の教会に行き始めました。
そして、信仰を回復し、今は教会の長老として奉仕させて頂いています。3男も1年大
学を休学した後に、復学し、今は牧師として奉仕しています。

ダビデは、言いました。「主は私のたましいを生き返らせ、御名のために、私を義の
道に導かれます」。みなさんの家族や友人で、今教会を離れている人はいませんか。祈
り続けてください主は、そのたましいを生き返らせ、義の道に導いてくださいます。

4. たとい、死の陰の谷を歩くことがあっても、私はわざわざいを恐れません。あなたが 私とともにおられますから。（主の守り）

ある時、妻が救急車で入院しました。病院で検査しますと、腸が団子のようにくっつ
いていて、手術も出来ないということでした。妻は、40日間、何も食べず、何も飲ま
ず、ただ点滴だけで過ごしました。3ヶ月経って快復し、退院しました。その時、家
には、私の母と妻の母が同居していました。私は、二人の面倒を見ることが出来ずに困
っていたとき、友人の牧師の紹介で妻の母をキリスト教老人施設に入る道を開いてくださ

いました。

今か26年前の10月、私は入院していました。膀胱にガンが見つかったのです。手術をして2週間で退院し、様子を見ることになりました。12月に検査をすると、ガンが広がっていて、膀胱を全部とらなければならないと、医者に言われました。人生で初めて自分の死を考えました。59歳の時でした。家族も私の死を考えなければなりませんでした。私も家族も「死の陰の谷を歩いたのです」。2月に手術をして膀胱を全部取り、人工の膀胱を造りました。手術は8時間かかる大手術でした。しかし、私たちは、すべてを主におゆだねしました。主はともにいてくださいました。そして主は、私に再び健康を与えてくださいました。それからも2回ほど入院し、一ヶ月ほど牧会を休んだこともありましたが、今はこのように元気です。

14年前、香川県で伝道しているときでした。10月の朝、妻がおなかの痛みを訴え、「救急車を呼んでほしい」と言いました。病院で検査すると、「腸が破れているので、すぐに手術しないと命が危ない」と言われました。手術は成功しましたが、それ以来、妻は人工肛門をつける身となりました。

私たちは二人とも、死の陰の谷を歩きました。しかし、主イエス様がともにおられたので、平安がありました。

5. あなたのむちとあなたの杖、それが私の慰めです。（試練）

試練とは何でしょう。それは、私たちを神の道に導くための「神のむちであり、杖なのです」。試練を受けるときは、悲しいですが、それがなければ、私たちは迷います。ですから、試練は私たちに必要なのです。それを知ると、主のむちと杖は私たちの慰めとなります。

主はなぜ、私たちに試練をお与えになるのでしょうか。それは

1. 私たちを「私たちの益のため、ご自身の聖さにあずからせようとして試練にあわせます。「霊の父は、私たちの益のため、私たちをご自身の聖さにあずからせようとして、懲らしめるのです」（ヘブル12:10）。

2. 私たちの幸せのためです。主は、イスラエルの民にこう言われました。「あなたの先祖たちの知らなかったマナを、荒野であなたに食べさせられた。それは、あなたを苦しめ、あなたを試み、ついには、あなたをしあわせにするためであった」（申命記8:16）。

3 私たちの心を知るためです。主は、イスラエルの民にこう言われました。「あなたの神、主が、この40年の間、荒野であなたを歩ませられた全行程を覚えていなければならない。それは、あなたを苦しめて、あなたを試み、あなたがその命令を守るかどうか、あなたの心のうちにあるものを知るためであった」（申命記8:2）。

私たちに試練が与えられるのは、主イエスが私たちを愛し、子どもとして訓練し、正しい道へと導いてくださるからです。

私たちの経験した、貧しさ、病気、子どもの病気、信仰からの離反、そのような試練のすべてが、私たちの慰めとなりました。

6. 私の敵の前で、あなたは私のために食事をととのえ、私の頭に油を注いでくださいます。私の杯は、あふれています。（危機の中での守り）

「敵の前」は、危険を表しています。危機的は状況の中で、主 はすべての必要を整えてくださいます。ですから、心配は要らないのです。主は、すべてをご存じであり、私たちを守ってくださいます。あなたは今、敵の前にいると感じていますか。主は守ってくださいます。

そして、主は油を注いでくださいます。油とは何でしょう。神のものであることの印です。それは、聖霊です。主は、信じるすべての者に聖霊を与えてくださるのです。イエス様は天におられます。しかし、イエス様は、ご自分の代わりに聖霊を送ってくださいました。聖霊は、信じる者とともに、信じるもののうちにおられます。それは、イエス様があなたとともに、あなたのうちにおられるのと同じなのです。

イエス様が私たちのうちに、聖霊によっておられるとき、私たちの杯はあふれます。祝福で満ちあふれるのです。

7. まことに、私のいのちの日の限り、いつくしみと恵みとが、私を追ってくるでしょう。私は、いつまでも、主の家に住まいましょう。（確信と献身）

ここまで言ったダビデは、確信します。「私のいのちの日の限り、いつくしみと恵みとが私を追ってくるでしょう」。主が私たちの羊飼いなのですから、私たちもまた、「私が生きている間、神の愛と恵みは私を離れることはない」と確信しましょう。

そして、最後にダビデは、はっきりと決心します。「私はいつまでも主の家に住まいましょう」。教会があなたの家です。いつまでもこの家に住みましょう。クリスチャン同士の交わりを喜びましょう。教会のいろいろな集会に出席しましょう。そして、私たちは、いつの日か、永遠に天の神の国に住むのです。アーメン。ハレルヤ。

きょう、あなたにとって主は羊飼いですか。あなたは乏しいことはありませんと言って、主に感謝していますか。

あなたはいま、試練の中にいますか。でも、その中で、主がともにいてくださり、義の道に導いてくださることを信じますか。主から離れてしまった子どもがいますか。祈りましょう。

主を信じましょう。主は私の羊飼いです。アーメン。ハレルヤ。